

平和教育プログラムの改訂について（報告）

1 平和教育プログラムについて

(1) 策定の経緯

教育委員会では、昭和45年から、平和教育の目標や内容、指導上の留意事項等を示した平和教育の手引きや、実践事例を掲載した指導資料を作成し、各校へ配付する等、平和教育の充実を図るための取組を進めてきた。

こうした中、平成22年度に実施した「児童生徒等の平和に関する意識実態調査」において、児童生徒の被爆に関する知識の定着や、学校間における取組、校種間の接続に課題がみられたことから、これまでの平和教育の目標や内容、指導方法等を見直すこととし、被爆の実相を理解することや、継承と発信を主軸に、発達段階に即した目標や内容を体系化した平和教育プログラムを平成25年度に策定した。

(2) 平和教育プログラムの目標及び内容について

平和教育プログラムにおいては、小学校から高等学校までの12年間を4つの発達段階に分類し、それぞれの目標を設定するとともに、目標に焦点化した効果的な学習ができるよう、「気付く（知る）（情報整理）」、「考える（思考する）（思考・探求）」、「伝える（発信する）（発信）」の全3時間で構成された学習単元を開発し、各学年に位置付けた。（資料1）

これらの学習単元を掲載した教材集「ひろしま平和ノート」は、市立学校の全児童生徒に配付しており、各学校においては、各教科や特別活動等の時間に、「ひろしま平和ノート」や地域教材の活用に加え、本市の継承と発信の取組である「被爆体験を聴く会」や「こどもピースサミット」等を実施することにより、平和教育の充実を図っている。

2 改訂の経緯

(1) 平和教育プログラムの検証

平成31年度、平和教育プログラムの6年間の実践の成果や課題をもとに、改訂の必要性について検証を行うため、大学教授や学校関係者を構成員とする「平和教育プログラム検証会議」を4回開催した。

「被爆の実相を理解し、確実に継承することができるものとなっているか」、「学んだ事実をもとに考えたことを発信していく力を身に付けることができるものとなっているか」、「発達段階に即したものとなっているか」、「教材の資料等は最新の情報となっているか」の4つの観点に沿って検証した結果、平和教育プログラムの目標と内容は、概ね4つの観点に沿ったものとなっているが、より発達段階に即した、被爆の実相を理解し、その事実をもとに考えたことを継承・発信する内容とするためには、平和教育プログラムの学習内容として位置付けている「ひろしま平和ノート」の一部を改訂する必要があるという結論となった。

(2) 平和教育プログラムの改訂

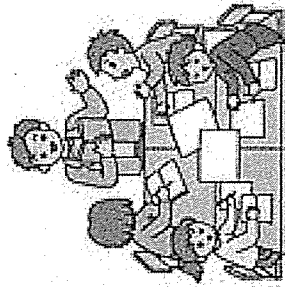
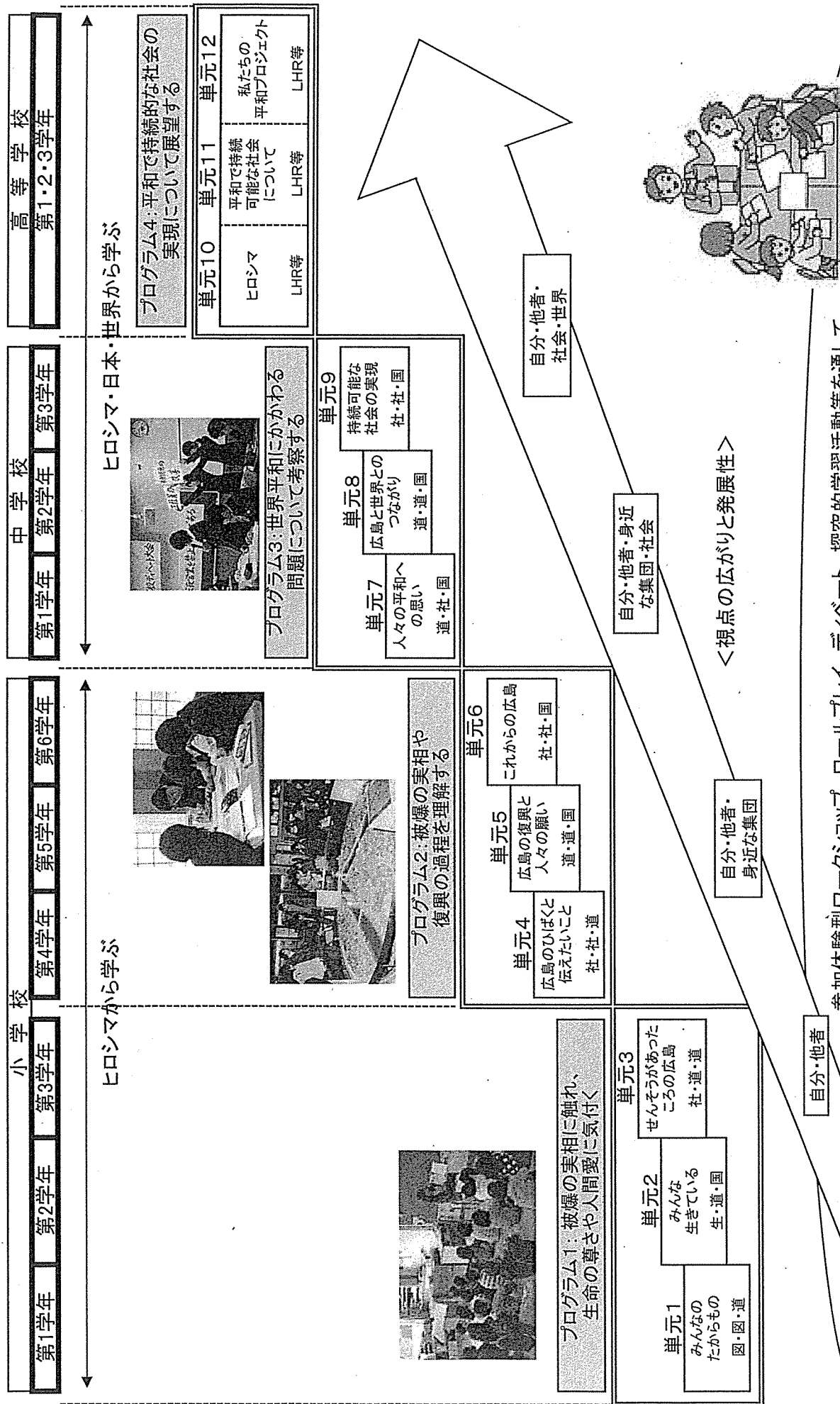
令和2～4年度、大学教授や平和関連施設代表者、学校関係者を構成員とする「平和教育プログラム改訂会議（以下、改訂会議とする）」を6回、主に教諭を構成員とする「作業部会」を5回開催した。

改訂案の策定にあたっては、まず、「作業部会」において、新たな教材やそれに応じた学習展開等を含めた試案を検討した。次に、試案に基づいて平和教育推進校（小・中・高等学校各1校）で試行授業を実施した後、児童生徒の反応等の結果をもとに、試案に修正を加え、改訂素案を作成した。さらに、改訂会議において、改訂素案を検討し、専門的な視点からの意見を踏まえ、「ひろしま平和ノート」の改訂案を作成した。（資料2）

今後、それに合わせた指導案やワークシート等を掲載した指導資料を作成し、平和教育プログラム全体の改訂を終了する。

平和教育プログラムについて

【平和教育の目標】 ヒロシマの被爆体験を原点として、生命の尊さと一人一人の人間の尊厳を理解させ、国際平和文化都市の一員として、世界恒久平和の実現に貢献する意欲や態度を育成する。



平和教育プログラムの改訂内容の一覧

1 改訂の観点

- ・ 観点①（実相の継承）被爆の実相を理解し、確実に継承することができるものとなっているか。
- ・ 観点②（発信）学んだ事実をもとに考えたことを発信していく力を身に付けることができるものとなっているか。
- ・ 観点③（発達段階）発達段階に即したものとなっているか。
- ・ 観点④（最新の情報）教材の資料等は最新の情報となっているか。

2 改訂内容

プログラム	学年	学習	改訂前		
			題材名	教科等	改訂の観点
プログラム1	小1	1	ぼく・わたしのたからもの	図画工作	
		2	ぼく・わたしのたからもの	図画工作	
		3	金魚がきえた	道徳	
	小2	1	もっと草花となかよくなるろう	生活	③
		2	アオギリ	道徳	③
		3	アオギリさんたちへの手紙	国語	②・③
	小3	1	子どもたちのくらし	社会	①
		2	家族のきずな	道徳	①・③
		3	引きさかれる家族	道徳	①・②
プログラム2	小4	1	フラワーフェスティバルにこめた願い	社会	①
		2	広島の子ばくと人びとのくらし	社会	①
		3	残したいもの・伝えたいこと	道徳	②
	小5	1	戦争・原子ばくだんがうばったもの	道徳	
		2	復興と人びとの願い	道徳	
		3	復興・発てんのにない手として	国語	
	小6	1	平和なまちづくり	社会	
		2	くらしの中の平和	社会	
		3	より平和なまちづくりを目指して	国語	
プログラム3	中1	1	お好み焼きに込められた思い	道徳	①
		2	平和記念都市建設に込められた思い	社会	①
		3	自分たちの学校や地域社会の平和	国語	③
	中2	1	世界に広がっていったサダコと折り鶴	道徳	②
		2	国境を越えた「愛」と「勇気」	道徳	②
		3	平和のためのレシピ	国語	②
	中3	1	核兵器をめぐる世界の現状	社会	①・④
		2	国際平和に向けての取り組み	社会	①・④
		3	平和で持続可能な社会に向けて	国語	②
プログラム4	高1	1	平和とは何か	LHR等	①
		2	原子爆弾と被爆の実相	LHR等	①
		3	被爆体験者が伝えること	LHR等	①
	高2	1	核兵器について考える	LHR等	①・④
		2	ヒロシマに対する人々の思い	LHR等	④
		3	ヒロシマから国際社会へ	LHR等	④
	高3	1	平和の実現のために自分ができること	LHR等	④
		2	私の平和プロジェクト	LHR等	④
		3	私の目指す進路と「平和」	LHR等	



改訂後	
題材名	教科等
もっと草花となかよくなるろう	生活
アオギリ	道徳
へいわをつたえるアオギリ	国語
子どもたちのくらし	社会
引きさかれる家族	道徳
つたえたいこと	国語
広島の子ばくとひがひ	社会
明子さんのピアノ	道徳
残したいもの、伝えたいこと	国語
路面電車を走らせた人々の思い	道徳
平和記念都市建設に向けて	道徳
広島に住む私たちの平和への思い	国語
次世代へのメッセージ	道徳
国境を越える平和へのメッセージ	道徳
私からの世界の人々への平和メッセージ	国語
核兵器をめぐる世界の現状	社会
国際平和に向けての取組	道徳
私の考える「平和」を伝えよう	外国語
原子爆弾と被爆の実相	特別活動等
原子爆弾投下後のヒロシマ	特別活動等
「伝える」ことの大切さ	特別活動等
核兵器の現状	特別活動等
ヒロシマに対する人々の思い	特別活動等
ヒロシマから国際社会へ	特別活動等
平和の実現のために自分ができること	特別活動等
私の平和プロジェクト	特別活動等

各学年の改訂案（小学校）

第2学年 単元名：みんな生きている

学習	課題	改訂内容
1 気づく	観点③ (発達段階) 植物を観察する活動に時間がかかり、気づきを伝え合う活動が十分にとれない。	生活科の単元と関連させ、観察記録やタブレット端末に撮り貯めた植物の写真等から、生活科の学習を想起して、気づいたことを書くページを作った。
2 考える	観点③ (発達段階) 1年生と比較した際、教材の語り口調の文章や挿絵が幼い。	文末表現と挿絵を修正した。
3 伝える	観点② (発信) 観点③ (発達段階) アオギリへ手紙を書く学習は、アオギリの気持ちを考えることに留まり、考えたことを伝える学習となっていない。 手紙を書く対象がアオギリとなっており、伝える目的をもちにくい。	これまでの学習から、伝える学習へとつなげるために、「被爆アオギリ2世」の取組について知り、家族に向けて、平和について考えたことを書く活動を設定した。

1

各学年の改訂案（小学校）

第3学年 単元名：せんそうがあったころの広島

学習	課題	改訂内容
1 気づく	観点① (実相の継承) 戦争中の子どもたちの暮らしの様子が分かる資料が少ない。	衣服、食事、生活、教科書、夜の町の様子を観点として、戦争中の子どもたちの暮らしが分かる資料を追加した。
2 考える	観点① (実相の継承) 漫画の一部を教材としているため、被爆の実相に迫りにくい。	原子爆弾によって、家族を一瞬で失った綿岡ちづ子さんの実体験を教材として扱った。
	観点③ (発達段階) 浪曲の場面は、児童の実態に合わない。鯉を盗む描写は、誤解を与える恐れがあり、補足説明が必要となるため、教材として扱うことが難しい。	どの児童でも経験のある写真を撮る場面を教材に取り上げた。
3 伝える	観点① (実相の継承) 漫画の一部を教材としているため、被爆の実相に迫りにくい。	これまでの学習から、伝える学習へとつなげるために、岩田美穂さん（綿岡ちづ子さんの娘）の取組について知り、学習を通して考えたことや、これからやってみたいことを学級の友達に伝える学習を設定する。
	観点② (発信) ゲンの気持ちを考えることに留まり、教材を通して、自分が平和について考えたことを伝える学習となっていない。	

2

各学年の改訂案（小学校）

第4学年

単元名：広島のひばくと伝えたいこと

学習	課題	改訂内容
1 気付く	観点① (実相の継承) フラワーフェスティバルに込められた思いや願いについて考える学習となっており、被爆の実相に気付く学習となっていない。	学習2の内容を学習1へ移動し、「熱線」、「爆風」、「放射線」の3つの観点で、原子爆弾の影響や被害について調べる学習を設定した。
2 考える	観点① (実相の継承) 原子爆弾の影響や被害について気付くことに留まり、考える学習となっていない。	学習3の内容を学習2へ移動し、「明子さんのピアノ」をもとに、戦争によって、自由を奪われた人々の思いについて考える学習を設定した。
3 発信する	観点② (発信) 戦争によって、自由を奪われた明子さんの思いについて考える学習に時間を使ってしまい、発信する活動に十分な時間を取れない。	これまでの学習から、発信する学習へとつなげるために、明子さんの生涯や思いを伝える牛田中放送部の取組について知り、残したいもの、伝えたいことをグループで考え、学級で発表する学習を設定した。

3

各学年の改訂案（中学校）

第1学年

単元名：人々の平和への思い

学習	課題	改訂内容
1 知る	観点① (実相の継承) お好み焼きは生徒にとって身近な題材であるが、被爆の実相を確実に継承する学習内容となっていない。	路面電車を教材として扱い、被爆直後の町や人々の被害の様子が分かる記述を追加した。
2 思考する	観点① (実相の継承) 被爆前後の中島地区の様子が地図や写真、文章により示されているが、被爆の実相や復興に向けて人々が活動する様子が伝わる資料が必要である。	社会科から道徳科に変更し、被爆建物や中島地区の復興に向けた動きが分かる資料を加えた。平和記念都市建設に込められた当時の広島市民の思いや願いについて考える学習を設定した。
3 発信する	観点③ (発達段階) 学級内での発信に留まり、小学校段階での学習からの発展が見られず、発達段階に即した学習内容となっていない。	当時、中国新聞の記者であった大佐古さんたちの現在の活動を知り、これまでの学習を振り返りながら、被爆直後の広島を知らない人たちへ伝えるメッセージを考え、発信する活動を設定した。

4

各学年の改訂案（中学校）

第2学年 単元名：広島と世界とのつながり

学習	課題	改訂内容
1 知る	観点② (発信) 資料の説明が難しく、生徒の理解が得られにくい。また、学習2・3との関連が薄く、発信につながっていない。	佐々木禎子さん、藤井幸子さんの生い立ちや、本市の被爆体験証言者・伝承者の活動に触れ、学習3「発信」につながるように、被爆の実相を継承していくための課題を考える学習を設定した。
2 思考する	観点② (発信) 資料の説明が難しく、生徒の理解が得られにくい。また、学習1・3との関連が薄く、発信につながっていない。	世界の要人が広島で行ったスピーチから、平和や核兵器に対する様々な立場の考えや思いを知り、誰に、どのようなメッセージを発信すべきかを具体的に考える学習を設定した。
3 発信する	観点② (発信) 発信する目的や対象が明確になっていないため、主体的な発信とならず、発信する内容が具体的になりにくい。	本市事業「中学生による『伝える HIROSHIMAプロジェクト』」のメッセージを資料として活用し、これまで学習した平和や核兵器に対する自らの見方・考え方を基にメッセージを考える学習を設定した。

5

各学年の改訂案（中学校）

第3学年 単元名：持続可能な社会の実現

学習	課題	改訂内容
1 知る	観点① (実相の継承) 第五福竜丸が被爆したという記述のみに留まり、被爆の実相を確実に継承する学習内容となっていない。	核軍縮への動き等について、地図や表、グラフ等から具体的に捉えられる資料に変更した。
	観点④ (最新の情報) 資料等を最新のものにする必要がある。	核弾頭の保有数やNPT再検討会議等、近年の情報に変更した。
2 思考する	観点① (実相の継承) 国際平和に向けての取組が具体的に分かるような新教材の開発を行う必要がある。	社会科から道徳科に変更し、サーロー・節子さんや美甘章子さんの言葉や活動を題材として、国際平和に向けた取組に込められた思いや願いを考える学習とした。
	観点④ (最新の情報) 資料等を最新のものにする必要がある。	資料を近年の情報に変更した。
3 発信する	観点② (発信) 発信する目的や対象が明確になっていない。	国語科から外国語科に変更し、これまでの学習を振り返りながら、広島を訪れた世界の人々へ英語で平和メッセージを書く活動を設定した。

6

各学年の改訂案（高等学校）

I 単元名：ヒロシマ

学習	課 題	改 訂 内 容
1 理解	<p>観点① (実相の継承)</p> <p>学習2「原子爆弾と被爆の実相」は「思考・探究」ではなく「理解」の内容になっている。</p>	<p>現行の学習1と学習2の内容を組み合わせ、「平和とは何か」「原子爆弾と被爆の実相」をテーマに話し合う学習を設定した。</p>
2 思考・探究	<p>観点① (実相の継承)</p> <p>学習2の内容を学習1へ移したため、新たな教材を作成する必要がある。</p>	<p>原爆投下後のヒロシマの人々が、家族を大切に、互いに助け合いながら、あきらめずに生きようとする姿が描かれた作品を教材として扱い、高校生が自身の生き方について考える学習を設定した。</p>
3 発信	<p>観点① (実相の継承)</p> <p>生徒がこれからの生き方を考えられるような教材を作成する必要がある。</p>	<p>被爆二世として海外で活動している美甘章子さんのインタビュー動画を新たに教材に加え、広島から海外にメッセージを発信することの重要性や被爆の実相を後世に伝承することの意義について考える学習を設定した。</p>

7

各学年の改訂案（高等学校）

II 単元名：平和で持続可能な社会について

学習	課 題	改 訂 内 容
1 理解	<p>観点① (実相の継承)</p> <p>被爆の実相を確実に継承する学習内容となっていない。</p>	<p>核兵器の現状について、資料やタブレット端末を活用して調べる活動を設定した。</p>
	<p>観点④ (最新の情報)</p> <p>資料等を最新のものにすることが必要である。</p>	<p>資料を更新し、タブレット端末を活用して、核兵器の現状に関する最新の情報を調べることができるようにした。</p>
2 思考・探究	<p>観点④ (最新の情報)</p> <p>資料等を最新のものにすることが必要である。</p>	<p>資料を更新し、基町高校卒業生や、被爆者、世界平和のために尽くした人等、様々な人々のヒロシマに対する思いを学ぶことができるようにした。</p>
3 発信	<p>観点④ (最新の情報)</p> <p>資料等を最新のものにすることが必要である。同世代の発信の具体例が少ない。</p>	<p>高校生の取組内容を更新し、全市立高校・中等教育学校の平和の取組を紹介することで、より身近に感じられるようにした。</p>

8

各学年の改訂案（高等学校）

Ⅲ

単元名：私たちの平和プロジェクト

学習	課 題		改 訂 内 容
1 理解	観点④ (最新の情報)	資料等を最新のものにすることがある。	タブレット端末を活用し、近年の「平和宣言」や「平和への誓い」の映像を視聴できるようにした。
2 思考・探究	観点④ (最新の情報)	資料等を最新のものにすることがある。	世界が協力して達成を目指すSDGsについて考えるための資料を掲載し、平和の構築に向けて具体的に考えることができるようにした。